



カイはどうやって、えさをとっているの

巻き貝は、歯舌でけずり取るようにして食べる

海にすむカイを、形のちがいで大きく分けると、ホラガイのような巻き貝の仲間と、アサリのような二枚貝の仲間に分かれます。

二枚貝以外のカイは、どれもカタツムリで見られるような歯舌をもっていて、この歯舌で食べ物をけずり取って食べます。歯舌は、小さなすどい歯が、おろし金のように舌の上に並んだもので、これで、野菜でも、岩についた海そうやコンブでも、かき取れます。肉食のカイは、貝殻をとく酸を出して二枚貝をおそったり、殻をこじあけたり、殻にあなをあけて長い口をさしこみ、カイの肉を食べます。ボウシュウボラは、ヒトデなどをおさえこんで食べます。

二枚貝は、水と一しょに吸いこんで食べる

ハマグリなどの二枚貝は、殻から水中に呼吸をするための、吸水管と出水管とよばれる2本の管をつきだしています。吸水管でたえず水を吸いこんでいますが、そのとき、水と一しょに吸いこまれたプランクトンなどをこし取り、えさにしています。

(監修・杉浦 宏)

